

新入荷商品のご紹介



万寿菊 塩瀬名古屋帯
きものサロン2018秋冬号に掲載の万寿菊の塩瀬名古屋帯。上品で都会的な装いに。



印伝小物入れ
ちようどよいサイズの
小物入れは、小銭
入れや宝石入れなど
アイデア次第で使い
方は無限大。新柄の
アイテムはこの秋一
押し。

2592円 (右)
4212円 (左)



かわちやの草履
28320円
台の組み合わせや鼻緒を選んで自分だけのオリジナルの草履に。音符柄の鼻緒を選んでコンサートに。



渡敬 帯締め
9720円 (上)
北山ゆるぎ 帯締め
8640円 (下)
秋のお出かけに新色の帯締めをつかってワンランクアップのコーディネートを目指してみたいかですか。

twitter、facebook、
アメブロやってます。

着物・和雑貨のかわちや
フェイスブックページ
<http://www.facebook.com/kawachiya888>

もっと着物を楽しもう！
かちゅうあんブログ
<http://ameblo.jp/kawachiya/>
日々、ブログを更新しています。
着物のこと、日常のこと、音楽のことなどつづっています。
チェックしてみてください。

呉服の河内屋
〒444-0521
愛知県西尾市吉良町上横須賀八王子62
<http://www.gofuku-kawachiya.co.jp>
メール info@gofuku-kawachiya.co.jp
tel 0563-35-0039 fax 0563-35-3539

趣味の着物、草履・下駄、着物のお手入れ、着付けなどお気軽にご相談ください。

きもの新聞 2018年9月号

ごあいさつ



少しずつ暑さも和らいできて、日に日に秋の訪れを感じる今日この頃です。10月に入ると秋祭りが多くなり、そこかしこで太鼓や笛の音が聞こえてくると、本格的な秋の深まりを感じますね。食欲の秋、芸術の秋、行楽の秋。
今年はどんな秋にしますか？

10月の連休 10月は連休なく営業いたします。

特集 大島紬の産地を訪ねて②



先月号に引き続き、今月も大島紬について綴っていこうと思います。
先月号では、大島紬の特徴である泥染について記述しました。今月号ではもう一つの特徴である締め機について少し触れたいと思います。締め機とは、絣系を作る段階で、染めない部分を木綿の糸で防染します。他産地の紬は絣系を作る場合、長く伸ばした状態で木綿糸でくくっていくのが多いのですが、大島紬は織機で木綿糸を織り込んで絣系の防染をするという珍しい方法で絣系を作っていきます。この締め機のおかげで大島紬の特徴である精緻な模様を作り出すことができるのです。

以前にも色々な方に聞いたり、今回も実際に見せて頂いたのですが、何度産地を訪れて、職人さんに説明して頂いても、どのように織ったらその柄の絣ができるのか理解することは難しいのですが、当然ながら職人さんはこの締め方なら、どういう絣ができるのかわかるといいますからやはり、熟練の



技だということが産地へ行くと実感することができます。皆さんもご存知のように大島紬というと誰もが知る紬の産地ですが、職人さんにお話を聞かせていただく中で、もっとも存亡の危機に瀕している産地でもあるという言葉が印象的でした。大きな産地程存続させていくことが難しいというのも今産地が抱える問題点の一つでもあります。皆さん大島紬を着ましょう。